

令和7年度アクションプラン（1学期の取組）

今年度のアクションプランです。本校のアクションプランは、「知」「徳」「体」の3つの視点から設定しております。学校運営方針を基にそれぞれ、昨年度の反省を踏まえた重点課題、目標、1学期の取組内容（方策）を示しております。

ご家庭でも、夕食時の話題にあげていただくなどして、アクションプランの目標が達成できますようご協力いただけたら嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。

【知】	重点課題 学習の習慣化、基礎・基本の定着、反復練習の重視
目標	「自主的に学習ができる生徒」（下記の学習時間の確保に心がけた生徒）80%以上 実践目標：1日の学習時間（休み時間や塾での学習を含む） 1年生80分以上、2年生100分以上、3年生120分以上
取組内容 （方策）	【学習指導】 ① 宿題も含め、課題に対する自主的な取組ができるよう支援する。 ・「早中ノート」の宿題欄、学習時間の記入を確認し、未記入や学習時間が少ない生徒には、コメントを通して励ます。 ・一人一人に「自主的に学習ができた」という状況を考えさせ、目標達成の見通しをもたせる。 ・生徒が自ら計画的に学習に取り組めるように、早めに課題を提示する。 ・一日の時間の使い方を振り返る機会を設ける。 ・進路学習を定期的に取り入れ、自らの将来や進路について考える機会を設ける。 ② 自ら取り組んでみたい、調べてみたいと思えるような学習課題の工夫や家庭学習の仕方について指導しながら定着を図る。 ・授業とのつながりを考えた課題や、課題で取り組んだことを生かした授業を工夫する。 ・短時間で完成でき、授業やテストに役立つ（やって得する）課題を準備する。 ・テーマを設定して、各自調べ学習を行う。例えば理科では、天気分野について、「大雨が降るのはどのようなときか」や「温暖化が進んでいるのに、大雪が降るのはなぜか」等、自分たちでテーマを設定して取り組ませる。 ・映像資料の活用（NHK for スクールなどのコンテンツ）：次時の授業内容の予習となるものを自宅で視聴し、教師から提示された問いへの回答を考えるような宿題を出し、家庭学習として取り組ませる。文字ばかりの課題より生徒の心理的ハードルが下がるとされる。 ・生徒の意欲を引き出すような宿題の点検、評価を工夫する。 ・家庭学習をいつすればよいか、何をすればよいか等を具体的に紹介したり、段階的に示したりする。（例：帰宅したらすぐ、夕食前等） ・ホームページや安心安全メールを通して、家庭での保護者の協力を呼びかける。 【生徒会活動】 ① 学習委員会で「家庭学習定着週間」はもとより、普段からの呼びかけを積極的に行う。 ・終学活時、「毎月の取組目標」を基に、学習委員会がクラス全体へ家庭学習（宿題をすること）を呼びかける。 ② 「家庭学習定着週間」の一人一人の記録集計から、実態を把握し実践力につなげる。 ・学習委員を中心に、各クラスの学習係が家庭学習時間と課題の提出状況を調査し、結果から問題意識をもたせる。 ③ 学年委員会の取組を生かす。 ・学年委員会を中心に、よい課題の取組例やテスト勉強の仕方等を紹介し、他の生徒の学習方法を共有する。

【徳】	重点課題 思いやり・相手を尊重する心の育成
目標	「周りの生徒が自分を認めてくれる生徒」80%以上 ※人間関係づくり活動を通して、生徒同士の人間関係の醸成に努める。
取組内容 (方策)	【教科や道徳指導】 ① 教科や道徳、特別活動の導入場面で、アイスブレイクの活動（S S T）を取り入れることで対人関係におけるスキルを学びながら緊張をほぐして、関わり合いやすい雰囲気をつくる。展開場面でのペアやグループでの活動が安心して円滑に進められるよう、機会を捉えて実施する。 ② 活動後のフィードバック（振り返り）を大切にする。口頭やメッセージカードで他の人のよいところを伝える。その際、「happy（されてうれしかった）」「thank you（してもらって感謝したい）」「nice（すてきだな、マネしたいな）」という話型を提示し、「行動」と「気持ち」を合わせて伝えると効果的と助言する。 【特別活動等】 学活や終学活の時間を利用して、ペアトークの活動を行う。聞き方・話し方に気を付けながら様々なトークテーマで普段関わらない級友とも話し、友達の話に分かろうとする経験を積む。 【生徒会活動】 様々な行事等に取り組むにあたり、学年間や学年を超えた集団で、試行錯誤しながらも生徒たちの力で完結させる。こうした「チーム体験」を通して得た達成感や所属感、他者貢献といった感情の変容を実感させながら積み重ね、日々の活動への意欲につなげる。

【体】	重点課題 規則正しい生活リズムづくりを中心とした健康な生活の実践
目標	「就寝1時間前のメディアオフを心がける生徒」80%以上
取組内容 (方策)	① ルールの定着を図る ・養護教諭が中心となり、メディア利用と体や心の健康とのつながり等について根拠を明らかにした指導を行う。 ・保健委員会がルールの呼びかけを行い、実情に合わせて適宜ルールの見直しを行う。 ② 早寝・早起き・朝ごはん＆メディアオフ週間の実施 ・生徒が自らの生活を見つめ直し、改善策を考えて取り組む期間を設ける。 ・この週間においては、メディア利用に限らず、学習時間や睡眠時間等の家での過ごし方に見通しをもって取り組めるよう、事前に家での過ごし方を考えさせる（生徒自身が帰宅後から翌朝までの時間の使い方を考え、用紙に記入し、それを目標に「早寝・早起き・朝ごはん＆メディアオフ週間」に取り組む）。 ・保健だよりや安心安全メールを通して、家庭での保護者の協力を呼びかける。 ・事後には、目標達成度調査だけでなく、達成できた理由や達成できなかった要因を生徒が振り返り、生徒が自分を見つめ、生活改善の方法を考えられる機会を設ける。